

第17回パネル展 「私の中で今、生きているあなた」

I N和歌山

4月30日から5月2日和歌山市民会館 展示室



毎日本新聞10. 5. 1

自殺防止を訴えるパネル展「私の中で今、生きているあなた」(NPO法人相継主催)が30日、和歌山市民会館(和歌山市佐法橋南ノ丁)で始まった。写真やパネル、新聞記事などを展示する。入場無料。2日まで。県内では初開催。全国50人の自殺者の遺書や遺族の声を約100点の写真をパネル、新聞記事などとともて展示される。県内では、過労原因で自殺した橋本市職員の男性(約46歳)の長男が小1の時に書いた詩を紹介。タイムマシンで父に行き、仕事に行ったらあかん。までほしい」と伝えられたという。



読売新聞10. 4. 30

22年)4月30日(金曜日) 言語

自殺者や人間関係に悩み、遺族の50人の遺書や写真、遺族の日記を集めたパネル展「私の中で今、生きているあなた」が30日、和歌山市民会館で開かれた。5月2日まで。和歌山市民会館で開かれた。5月2日まで。和歌山市民会館で開かれた。5月2日まで。



自殺した人の写真や、遺族のメッセージなどが展示されている和歌山市民会館

■兵庫の会社員
会梅には遺族も駆けつけ、06年11月に自殺した兵庫県尼崎市の大手運輸会社元社員、大橋均さん(当時56歳)の妻錦美さん(60)の姿もあった。

損害賠償などを求めた訴訟は2月に大府地裁で、会社の安全配慮義務違反を一部認める判決が下され、確定した。錦美さんは「はじめに働いてきた夫を追いつめ、教えない今の社会は異常だ。もっと人間をありのまま受け入れられる社会になって」と願った。

大橋さんはC型肝炎ウイルス感染が原因で、関連会社への出向など異動が続き、通院を申し出たが、上司から「仕事にならない。会社に迷惑をかけていると思うなら、自分から身を引いたらどうか」と辞職を促され、05年にうつ病と診断された。直筆の日記には、「35年近く勤続し(中略)自分なり会社につかえて来たのに、うまく言い返せなかった事は悔しい」と書かれている。

錦美さんがアメリカで暮らす長男に電話で相談すると、家族旅行を提案された。「お父さんはもう有給休暇使えないよ」と言うと、「週末に行こう」と誘われ、旅行

大橋均さんの日記などを写したパネルを展示する和歌山市民会館で妻錦美さん

5/1 和歌山

職場での過労やうつ病になり、自ら命を絶した57人の遺書や家族の手記など約100点を集めたパネル展「私の中で今、生きているあなた」が30日、和歌山市民会館で開かれた。5月2日まで。和歌山市民会館で開かれた。5月2日まで。

医師や教師、企業員、いじめつらい日記や会社員も種々様々、遺書で伝える。また、自殺前の超勤働「妻とのコミュニケーションの喪失やパワハラ、シフト不足が自殺の原因」

5/1 和歌山

「命絶った『あなた』を思う」

遺族手記や写真展 50人のパネル

み、自ら命を絶した。展示では、妻50が、当時幼稚園児だった次男16から聞いた言葉。

「大きくなったら博士になりたい」という次男は、タイムマシンを作って、「お父さんのしんぞう、前の日記にく。そして『仕事に行ったらあかん』ていよんや」と話したという。男の妻は「同じような職場環境で苦しんでいる人が、一人でも救われたら」と訴える。

因の可能性もある」とする判決も重なり、遺族の立場を踏まえて、遺書や日記を展示した人のメッセージもある。警察庁の統計によると、09年の自殺者数(遺体)は約27.5万人(前年比12.2%増)で、3万人を超え、県内では約3万人、精神保健センターに多いという。50代の男性が多い。主催する大阪市のNPO法人働く者のメンタルヘルズ相談の伊藤理事は「遺書や非正規雇用などの不安定な生活、リストラによる負担増加、うつ病になる人が増えている。人々の悩みを分かち合いたい」と話している。07年4月から毎月、県内では初巡開催。県内では初無料で。午前10時から午後5時。無料。



自殺前の遺書や日記